

Road to ジョッキーベイビーズ

ジョッキーベイビーズ出場を目指して全国各地で激しい予選が繰り広げられました。その模様をレポートします。

8月18日(日)

東北・新潟地区

JRA福島競馬場「東北・新潟地区代表決定戦」

本年地区代表決定戦で最多の20名がエントリー。まず技術審査(部班運動)及び予選(ジムカーナ)を行い、選抜された4名がダート直線250mの代表決定戦へ進出しました。決定戦はパークウインズ発売終了後の夕暮れの時間帯に行われましたが、多くのお客様が競馬場に残り、声援を送っていました。ゴール前まで接戦となったレースは、スタートから先行していた新潟少年団の梅澤伶士くん(中学1年生)が他馬を振り切って逃げ切り勝ち。多くの方々の祝福のなか、見事決勝大会への最後の切符を手に入れました。



北海道地区

7月28日(日)

JRA日高育成牧場「北海道地区代表決定戦」

今年は7人馬がエントリー。予選2レースを行い、各レースの上位2名(計4名)による決勝で代表を決定しました。当日は、朝から強い雨が降り、水分を多く含むダートで、人馬にとって厳しい環境下での開催となりました。その中で優勝したのは、櫻姫号に騎乗した大池由起菜さん(中学1年生)。スタートからゴールまで2着になった人馬との激しい競り合いになり、最後は僅差で勝利を掴みました。大池さんは、昨年の同地区決勝レースで1位入線もフライング失格となっていただけに、そのリベンジを果たすことができました。



関東地区

8月1日(木)

JRA馬事公苑「関東地区代表決定戦」

JRA馬事公苑は、昨年11月に東京都世田谷区で再オープンし、8年ぶりに関東地区代表決定戦の開催地となりました。今年は総勢18名がエントリー。まず予選でもある騎乗技術審査を行い、代表決定戦出場の6名を選出。そして、代表決定戦(3頭立て)を2レース行い、各レースの優勝者が関東地区代表に選ばれました。代表決定戦は、ダート直線250mで行われ、1レース目は井上里紗さん(中学1年生)、2レース目は須田希さん(小学6年生)が優勝し、この2名が見事全国大会の切符を手に入れました。



7月21日(日)

中部地区

JRA中京競馬場「中部地区代表決定戦」

今年からJRA貸与馬によるポニー競馬へと運用を変更して開催され、総勢15名がエントリー。まず予選も兼ねた騎乗技術審査で5名がダート300mの代表決定戦へ進出しました。当日は、最高気温が37℃に迫る猛暑日となりましたが、代表決定戦は17時30分発走ということで、日中に比べると若干気温が下がった環境で実施できました。その中で優勝したのは、ホテル号に騎乗した福嶋翔音くん(小学6年生)。好スタートから先頭に立つと、後方から迫ってくる他馬に詰め寄られる場面もありましたが、何とか逃げ切り全国大会出場を果たしました。



関西地区

6月23日(日)

三木ホースランドパーク「みっきいポニーレース」

ジョッキーベイビーズの甲子園こと東京競馬場を目指し、今年は11人馬がエントリー。予選3レースを行い、各レースの上位1名(計3名)による決勝レースで代表を決定しました。距離300mで、スタート直後にコーナーがあるテクニカルで難しいコース。今年はさらに雨天での実施となり人馬にとってタフなコンディションのレースとなりました。その中で優勝したのは、メアリー号に騎乗した佐々木天馬くん(小学6年生)。決勝では、好スタートから先頭に立つと、後方から迫る他馬を振り切ってゴールし、見事全国大会出場を決めました。



8月12日(休・月)

九州地区

JRA宮崎育成牧場「第33回 馬に親しむ日」

今年は7人馬がエントリー。日差しが強く厳しい暑さとなりましたが、馬に親しむ日のイベントということもあり、多くのお客様に見守られる中での開催となりました。予選2レースを行い、各レースの上位2名(計4名)で行われた決勝は、スタートからゴールまで激しく競り合う展開となり、予選・決勝戦ともに安定したスタートを切っていたルナ・クイーン号騎乗の永谷愛琉くん(小学6年生)が僅差でゴール。「ルナ・クイーンが頑張ってくれて嬉しかったです」とコメントしてくれたとおり、人馬一体となって見事全国大会出場を勝ち取りました。



沖縄地区

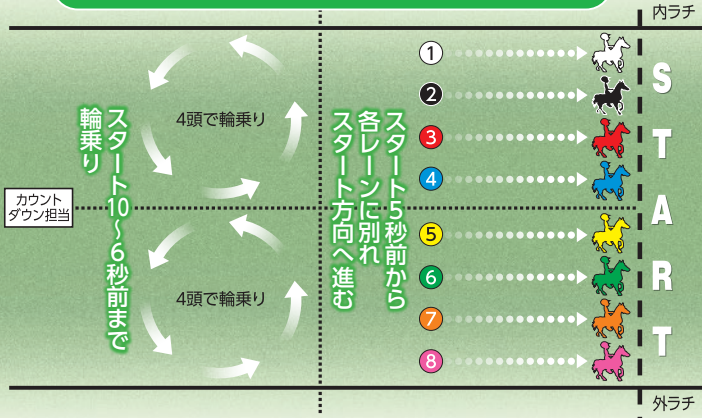
6月23日(日)

中城公園「沖縄地区代表選考会」

今年は、沖縄地区と関西地区の代表決定戦が同日に行われ、関西地区とは異なり、沖縄は強い日差しの中での開催となりました。当初は、2人馬のエントリーでしたが、辞退があり1人馬に対する代表選考会となりました。部班審査および直線走行審査で「姿勢」「扶助操作」「バランス・リズム」の項目について審査を行った結果、岡村真花さん(中学1年生)を昨年引き続き沖縄地区代表として選出。岡村さんは、「昨年の決勝大会は6位と悔しい思いをしたので、今年は優勝目指して頑張ります」という力強いメッセージを残してくれました。



スタートの方法 (カウントダウン方式)



★口取り(引き手)はJRA職員が行います。

★危険防止のためムチは持ちません。

※ポニーはゲートの練習をしていません。制止させ一斉に引き手を放すやり方では、馬がよれる可能性が高まり危険なため、上記スタート方法を採用しています。

※東北・新潟地区、関東地区、中部地区の技術審査は主に「部班(集団で整列して騎乗し号令により動きを変える運動)」および「ジムカーナ(指定経路を走行するタイムレース)」が行われました。
※各予選では貸与馬方式(予選主催者が馬匹を用意する)【東北・新潟、関東、中部の3地区】と自馬参加方式(馬匹も参加者が用意する)【貸与馬方式以外4地区】に分かれています。
※各予選の様子はジョッキーベイビーズ公式ホームページにて視聴することができます。

過去のジョッキーベイビーズ優勝者

★第1回(2009年)★ 木村拓己くん(北海道)	★第7回(2015年)★ 大池峻馬くん(北海道)
★第2回(2010年)★ 渡邊亮介くん(関東)	★第8回(2016年)★ 上薄龍旺くん(九州)
★第3回(2011年)★ 石井李佳さん(関東)	★第9回(2017年)★ 加藤雄真くん(東北・新潟)
★第4回(2012年)★ 小林勝太くん(長野)	★第10回(2018年)★ 木村暁琉くん(長野)
★第5回(2013年)★ 斎藤 新くん(関東)	★第11回(2019年)★ 佐野遥久くん(長野)
★第6回(2014年)★ 角田大和くん(関西)	★第12回(2022年)★ 松浦太志くん(東北・新潟)
	★第13回(2023年)★ 川田純煌くん(東海)

注目の決勝レースは、いよいよ10月13日(日)、東京競馬場で行われます。お楽しみに!!

※天候その他の理由により、イベントを中止または変更する場合がございます。予めご了承ください。

★ジョッキーベイビーズ公式ホームページ

ジョッキーベイビーズ

検索

